

# 平成29年度外部評価委員会評価票の集計

次の各項目について、該当するものを選んでください。

- A：そう思う
- B：どちらかといえばそう思う
- C：どちらかといえばそう思わない
- D：思わない

## 1 研修センターの事業について

- ① 各事業の内容が具体的で分かりやすくなっているか。
- ② 教職員のライフステージに即した研修体系になっているか。
- ③ 研修事業について

ア 研修講座は、教職員の資質能力の向上及び指導の改善につながっているか。

イ 受講者のニーズを把握した研修内容になっているか。

ウ 所員の専門性の向上は図られているか。

- ④ 研究事業について

ア 各研究分野における内容は、国及び県の教育施策を反映した喫緊の課題に対応しているか。

イ 研究成果は、学校教育活動に生かされているか。

ウ 研究発表会は、参加者にとって満足感が得られるものであるか。

- ⑤ 校内研修支援事業は、学校現場の校内研修の活性化及び課題解決に貢献しているか。

- ⑥ 相談事業は、児童生徒・保護者等の問題の解決へ向けて適切に対応しているか。

- ⑦ 教育情報の収集及び提供に関する事業は、教職員の多様な要望に応えているか。

- ⑧ 研修センターの内部評価について

ア 教育研修センターが実施している各事業の達成目標、達成度評価は、適切であるか。

イ 内部評価は、適切に行われているか。

## 2 施設設備の整備等について

- ① 受講者の健康管理・安全管理体制は、確立されているか。

- ② 施設設備の維持管理が十分行われているか。

- ③ 障害者に対して十分配慮されているか。

- ④ 危機管理体制が確立されているか。

- ⑤ 清掃の状況は行き届いているか。

## 3 外部評価委員会について

- ① 開催回数及び時期（7月・10月・2月）は、適切であるか。

- ② 開催内容（施設見学・研修講座参観等）は、適切であるか。

- ③ 評価のための資料は、適切であるか。

- ④ 評価票の項目及び評価方法は、適切であるか。

人数(人) (計8人中)			
A	B	C	D
7	1	0	0
4	4	0	0

7	1	0	0
4	4	0	0
4	4	0	0

7	1	0	0
6	2	0	0
6	2	0	0
7	1	0	0
5	3	0	0
0	7	1	0

6	2	0	0
7	1	0	0

1	5	2	0
5	3	0	0
2	6	0	0
3	5	0	0
7	1	0	0

6	1	1	0
7	1	0	0
5	3	0	0
3	5	0	0

## 平成 29 年度茨城県教育研修センター第 3 回外部評価委員会記録

日時	平成30年 2 月21日（水曜日） 午前10時から午前11時30分まで
場所	茨城県教育研修センター第 1 研修室
出席者	<p>○外部評価委員  生越 達 委員  橋本 昭彦 委員  古川 聖登 委員  小田部 卓 委員  関 洋一 委員  稲見 和子 委員  岡部 しのぶ 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター  所長 安藤 昌俊  次長 熊田 勝幸  次長兼教職教育課長 菅又 章雄  企画管理課長 吉田 孝則  教科教育課長 辻 武晴  情報教育課長 渡邊 政美  教育相談課長 田部井 悦子  特別支援教育課長 大川 行彦  企画管理課指導主事 岡野 敏昌  企画管理課指導主事 小林 豪</p>
次第	1 開会 2 所長あいさつ 3 議事 (1) 平成29年度各事業の実績及び成果 (2) 外部評価委員による事業評価 (3) その他 4 閉会

### 1 開会

### 2 所長あいさつ

### 3 議事（要旨）（○は委員，●は事務局を表す）

#### (1) 平成29年度各事業の実績及び成果

・事務局から説明

#### (2) 外部評価委員による事業評価

##### 【1 研修センターの事業について】

- 事業評価シートの達成目標については，研修のねらいや受講者の達成目標が具体的に記述されているものが多くなっている。
- 達成度評価では，質問項目が受講者の達成度を聞いていないものもあり，達成目標と達成度評価，事業評価を整合させる必要がある。
- 達成目標に対して客観的に達成度を評価できるよう改善していきたい。また，研修後の追跡調査も検討したい。

- 希望研修は、先生方が受講したいと思うようなネーミングの工夫が必要ではないか。
- ベテラン教員のモチベーションを上げられるような研修の充実が図られるとよい。
- ICTやアクティブ・ラーニングに関する研修は、ベテラン教員にも受講してもらえるよう、参加しやすい工夫が必要である。
- 中堅教員やベテラン教員にも興味をもってもらえるような内容の講座を計画している。興味をもってもらえる講座名については、今後検討していきたい。
- 10年以降の中堅教員は協働しながら学校運営に関わっていくという視点が重要であるので、協働して学校運営に関わるような研修も取り入れていただきたい。
- 来年度は、校内研修支援にマネジメントの分野を設け、学校の課題に対応できるようにしたいと考えている。
- 女性の活躍のためには、管理職の意識を変えること、早い段階でキャリアデザインを提示することが必要である。
- ワーク・ライフ・バランスについては、中堅研修の中で全員の先生方に研修していただいている。また、新任管理職の研修では、教員の勤務時間の管理について取り扱っている。県教育委員会でも働き方改革に取り組んでいるが、今後の研修講座についても働き方改革を進めながら研修効果を高める講座運営を工夫する必要があると考えている。
- LGBTについての研修ニーズが高くなっている。先生方が自信を持って指導できるような研修も必要ではないか。
- 人権教育についての研修として、基本研修や職務研修で行っている。今日的課題に対応できるように内容の充実を図りたい。
- 長期研修生の研究主題が似ているものが多いので、課題としていることや目標としていることが見える研究主題になるとよいのではないか。
- 長期研修生の主体的な研究なので、何を研究しているのかが見えやすい主題となるように助言していきたいと思う。

## 【2 施設設備の整備等について】

- アンケート結果を見ると、空調関係の要望が挙げられている。研修の環境として、照明と音響、空調は大切であるので、施設の年数に応じたメンテナンスが必要ではないか。
- 予算の関係上、空調施設の更新は予定していない。大研修室や大会議室など暖房空間の広い研修室は、暖まるまでに時間がかかるため、運転時間を早めて対応している。今後、大型ヒーターの購入も検討している。
- 学校の業務改善については、ある程度共通化を図ることが必要になるのではないか。
- 今年度、県立学校には校務支援システムが導入され、校務の効率化が進められている。
- 評価票の「③ 障害者に対して十分配慮されているか」などの項目は、資料から評価することが難しい。
- 正面玄関の右側の入り口はスロープになっており、車椅子も設置している。また、特別支援教育棟には、身障者用トイレも各階に設置している。資料に施設設備の図面を入れるなど、設置状況が分かるような資料を検討したい。

## 【3 外部評価委員会について】

- 評価票の項目や評価方法については、アンケート項目と自由記述があるので評価方法としては適切である。
- 評価のための資料については、重点を置いている事業が分かるように示してもらえると評価しやすい。

### (3) その他

- ・事務局から今後のスケジュールについて説明

## 4 閉会